

10/16 福井

新型コロナ 入院受け入れ2割増 政府対策骨格 来月に全体像

政府は15日、新型コロナウイルズ感染症対策本部会合を首相官邸で開き、今後の感染拡大に備えた対応の全体像の骨格を示した。今夏の流行「第5波」のピーク時と比べ、感染力が2倍程度となった場合、重症者対応などを念頭に2割増の

入院患者を受け入れられる医療体制を整備する方針だ。感染力が3倍になれば「強い行動制限を機動的に国民に求める」と明記。コロナ以外の一般医療を制限し緊急的な病床確保措置を講じるとした。

全体像は11月の早期に取りまとめる。今後予想される「第6波」に向け、19日公示の衆院選の大きな争点であるコロナ対策をアピールする狙いがある。第5波は自宅療養中に症状が悪化しても入院できずこくなるケースが相次いだ。岸田文

【4面に表層深層】

新型コロナ対策強化のポイント

- ◆ 入院患者を1.2倍受け入れられる医療体制を整備
 - ◆ コロナ病床として申告しながら患者を受け入れない「幽霊病床」を改善。病床使用率を少なくとも8割に
 - ◆ 法律に定められた国の公的病院への要求など権限を発動し専用病床を確保
- 感染力が3倍の想定**
- ◆ 国民に強い行動制限を求め、一般医療を制限して病床を確保する

雄首相は会合で「最悪の事態を想定して次の感染拡大に備える」と述べた。立憲民主党的の衆院選公約は病床逼迫などを「自公政権による失政の結果」と強く批判。検査と水際対策を徹底し「国が病床などの確保に主体的、積極的に関与し、

責任を持つ」としている。厚生労働省によると、入院患者受け入れの2割増は、感染力が今夏の2倍程度と想定した上で設定。ワクチン接種が若年層を含めて進んだことで今夏より感染者数が半減した後で、感染者数が再び第5波と同程度になった場合、相対的に重症者化しやすい高齢感染者の割合増が予想され、医療体制を2割増強するとして

いる。全体像ではワクチン3回目接種の年内開始を巡り、体制やスケジュールを明らかにする。骨格は、医療体制整備は「感染拡大時の病床使用率について、少なくとも8割を確保する」と盛り込んだ。法律に基づく要請を含めた国の権限発動で「公的病院の専用病床をさらに確保する」とした。コロナ病床として申告しながら実際は患者を受け入れない「幽霊病床」の改善にも取り組む。対策具体化には難航する医療人材確保が必要だ。一般医療との両立も課題。都道府県や医療機関に効果的支援策を打ち出せるかどうかが問われそうだ。

甘い「最悪想定」懸念

10/16 福井

政府 コロナ入院体制増強

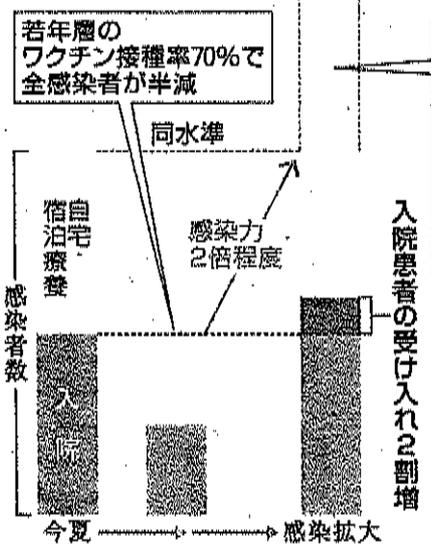
ワクチン接種効果前提

医療現場、自治体は困惑

岸田文雄首相が15日、新型コロナウイルス対策の骨格を打ち出した。最悪の事態を想定し、今夏の流行「第5波」に比べ「感染力が2倍になっても対応可能な対策を策定する」と強調。一方で、ワクチン接種の効果を前提としたシナリオには「甘い見通しでは」との懸念もつきまとう。医療現場や自治体の担当者には困惑が広がる。

【一面に本記】

新型コロナ感染拡大と対策のイメージ



感染力が3倍なら強い行動制限

入院患者の受け入れ2割増

安心感

「今後の感染拡大の可能性に備え、対策に万全を期して行く」。首相は15日の感染症対策本部会合で、医療体制の整備を急ぐよう関係閣僚に指示した。

からくり

就任から10日余り。衆院選が事実上始まったタイミングで首相が骨格の公表を急いだ背景には、有権者の不安を払拭し支持を得たいとの思惑がある。官邸筋は「病床を確保します」だけでは国民に分かりづらい。なるべく具体的な数字を示すことで安心感を高めたいと明かす。

骨格では、病床など入院患者の受け入れ体制を2割増強するほか、補助金をもたらしながら患者を受け入れなかった「幽霊病床」を改善し、病床の稼働率を8割以上に引き上げると明記。

深層表層

未知の世界

第5波の感染者は急速に減少したが、ワクチン以外にも複数の要因が指摘されており、政府の仮定を疑問視する専門家もいる。

重症者治療に当たる近畿大病院（大阪府大阪狭山市）の東田有智病院長は、ワクチンで強化された免疫力は「個人差も大きく時間とともに下がる。それらを加味した分析なのか」と首をかしげる。接種で重症化が抑えられても、ウイルスの変異でワクチンの効果が低下する可能性も。欧米では接種後の「ブレイクスルー感

染も報告されており、これからは未知の世界。簡単に考えないで」と向きを刺す。

政府が自指す行動制限の緩和も不安材料。「国民の気が緩み感染者は間違いなく増える。」「2割病床を増やすから大丈夫」と言われても、医療現場は全く油断できない」と断言する。

関東地方の自治体担当者は「第5波でも手術の延期など一般医療を制限し、なんとか病床を増やした。これ以上の増床は苦しい」と明かす。病床を増やすには、医師や看護師の確保が欠かせず「無理に病床を増やしても『幽霊病床』が増えるだけ」と語った。

「コロナ対策は衆院選の主要争点となる。立憲民主党の森裕子参院幹事長は13日の参院本会議で、菅偉政権までの政府が公立、公的病院の再編を進めてきたとして、こう批判した。」「コロナ禍で病院のベッドを増やさなければいけないのに、削減するという支離滅裂な政策を進めてきた。こんなばかげたことはもうやめませんか」